

プロポーザル審査委員会（第2回）会議概要・議事録

◇会議概要

○開催日時：平成24年1月19日 13:30～17:00

○出席者：委員（林委員長、安達副委員長、赤司委員、上山委員、小松委員、坂本委員、篠原委員、仲委員、室崎委員、田中委員）

事務局（加藤参事監、永松県庁舎建設課長外）

○会議次第

1. 報告
2. 議事
 - (1) 一次審査について
 - 1) 一次審査の進め方
 - 2) 専門的審査（意見交換）
 - 3) 採点、集計
 - 4) 一次審査（選定）
 - (2) 選定・非選定通知について
 - (3) 二次審査について
二次審査の進め方、ヒアリング
 - (4) その他
公表について

○審議結果等

- 1) 県議会からの意見として、設計プロポーザルにおける透明性の確保や、議会や県民の声を反映した基本構想の実現を踏まえた審査等、公平・中立な審査を求められていることを事務局から報告。
- 2) 一次審査の進め方は事務局案を了承。
- 3) 一次審査の結果は、B者、C者、D者、G者の4者を選定。
- 4) 選定、非選定の通知は事務局案を了承。非選定理由の説明を求められた場合の回答は、事務局で案を作成し、委員長一任事項とする。
- 5) 二次審査の進め方は次回（第3回委員会）の午前中の審議事項とする。ヒアリングは、各者の説明の時間は20分、質疑応答の時間は25分とする。
- 6) 議事録等の公表は第3回委員会の審議事項とする。

◇ 議事録

○報告

事務局：本日は委員全員が出席しており、委員会は成立。参加表明書の提出は8JV。本日の一次審査で、5者程度を選出いただきたい。その前に、県議会の意見を事務局から紹介する。

事務局：県議会では、県議会・県政改革特別委員会において、外部の審議会等諮問機関のあり方を議論中。その中で、議事録を公開すべきという意見が出されており、第1回の委員会では自由闊達な意見交換を阻害することのないものとするとしていたが、さらに透明性を高めるにはどのようにすればよいか後ほど議論いただきたい。また、今回はこれまでにない大型プロジェクトであり、県議会からは、プロポーザルの審査は基本構想を前提とした議論がされるのかという質問もあり、当然のことと回答。公平中立な議論が大前提と説明。

○議事

(1) 一次審査について

1) 一次審査の進め方

委員長：県民から注目され、一番大事なことは公正であること、審査においては各委員の専門分野に関する評価がしっかり反映されていること。専門外も意見を出し合い合議の上で結論としたい。一次審査での選定は5者程度としているが、これは、参加者を10数者と想定した場合で、今回の参加表明者8者から5者を選定することは少し多い気がする。後で議論したい。

事務局：参加表明書の提出は8者、全て要件を満たしており受け付けた。受付順で、A者～H者とし、会社名を伏せて表示。評価方法は基礎的審査と専門的審査とで構成。①基礎的審査は、有資格者数、同種・類似業務の実績数（様式2、4）、担当チームの経験等（様式5-1～6）について、事務局が評価。②専門的審査は、審査委員が事務所の実績（様式6-1、6-2）担当チームの経験等（様式7-1～7-4）、業務の実施方針（様式8）を審査し、委員の専門的見地を踏まえた意見交換の後に評価項目の6項目を評価。評価はA評価、B評価、C評価の3段階とし、様式6-2と様式8の項目は相対評価とする。相対評価は、参加表明書提出者8者に対して、A評価は2者程度、最大3者、C評価は2者程度、最小でも1者を評価の目処とすることで、各者の差をつける案。

委員長：このことに対する意見はないか。

委員：協力事務所を積極的に評価する考えもあると思うが、事務局案では協力事務所への再委託は評価が下がる。

委員：再委託すると密度が下がると思う。外部で優秀な事務所の場合もあるし、逆の場合も

あるので外に出すのはリスクがあると思えば、今のままでよい。

委員：管理体制で評価したい。協力事務所への再委託は、一般的にはリスクよりも専門性が高くなるようだ。

委員長：難しい判断。両方の意見があり、今回は事務局案で進めることでどうか。

委員一同：同意。

委員長：事務局から評価項目を6項目とする案が出ている。また、専門的審査における相対評価では、参加表明書提出者8者に対して、各委員（A評価を2者、B評価を4者、C評価を2者、を基本として）最大A評価を3者以内で、C評価を1者以上と評価する案とし、本業務に活かせる実績（様式6-2）と実施方針（様式8）を相対評価とする案が出されているがどうか。

委員一同：同意

委員長：参加表明書の審査の前に、委員会の共通認識を持つため、意見交換を行いたい。意見の内容は専門でも専門外でも良い。

2) 専門的審査（意見交換）

参加表明書に対し、各委員から別添1（4枚）のとおり意見が示された。

3) 採点、集計

各委員が専門的審査項目について採点を行い、その結果を基礎的審査項目と合わせた集計表を作成。

○ 一次審査集計表（合計得点の多い者の順番に表示）

評価項目		評価事項	配点	B者	G者	D者	C者	F者	H者	A者	E者
基礎的審査		(様式2.4) 有資格者数、同種・類似業務実績数を評価	50点	50.0	50.0	50.0	50.0	46.0	48.0	44.0	36.0
		(様式5-1~6) 管理、主任技術者の経験年数、同種・類似業務実績数、受賞歴件数等を評価	50点	50.0	50.0	49.0	48.0	43.0	48.0	42.0	37.6
専門的審査	事務所 実績の評価	(様式6-1) 業務実績(設計理念)の内容を総合的に評価	30点	(1位) 29.0	(1位) 29.0	25.0	25.0	20.0	19.0	18.0	18.0
		(様式6-2) 業務実績(本業務に活かせる)の内容を総合的に評価	20点	16.5	15.8	(2位) 17.9	(1位) 18.6	11.2	9.4	10.6	11.3
	技術者 業務の実施方針	(様式7-1~4) 同種業務実績の内容を総合的に評価	50点	(1位) 43.2	(2位) 41.6	41.5	41.5	26.6	29.9	30.0	25.0
		(様式8) 敷地全体(防災緑地等を含む)の整備に関する提案を総合的に評価	40点	(1位) 37.4	(2位) 34.7	32.2	26.7	26.7	24.2	17.2	24.2
		(様式8) 整備基本構想を具体化するための方策に関する提案を総合的に評価	40点	(1位) 40.0	(2位) 34.7	32.1	22.6	28.2	21.4	22.8	21.4
		(様式8) 業務実施のための組織体制、作業スケジュールを総合的に評価	20点	(2位) 17.2	14.6	(1位) 18.6	13.7	12.6	11.4	10.0	9.4
合計		300点	283.3	270.4	266.3	246.1	214.3	211.3	194.6	182.9	
順位				1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位

4) 一次審査（選定）

委員長：これから、8者の参加表明者から技術提案書の提出者として5者程度を選定する。集計結果は、4位のC者と5位のF者の間にかなり開きがある。5者を選定するならば、F者と6位のH者の得点差が僅差であることから、H者も選定し6者とする考え方もある。

委員：オフィス計画では、F者とG者がよい。しかし、それだけではF者を選定する理由にならない。F者には興味があるが、全体の評価結果を覆すほどではない。

委員：今の意見に賛同。

委員：参加表明書の限られた用紙でF者はオフィスを言及しているが、他者はランドスケープなどに重点を置いている。オフィスは設計の中で検討していくことであり、F者以外は今回の提案の中では重点を置かれなかったと理解する。

委員：業務の実施方針では、H者、F者、C者を評価したが、C者は実績の評価が高く、実施方針ではF者の評価が高い。実績と実施方針はどちらに重点を置くかで評価が変わってくる。

委員：明らかにだめな者を外し、可能性があれば話を聞くという考えもあるのでは。

委員：F者以下は、各評価項目において1番、2番をとった評価項目がない。

委員：技術提案者の数が多いと二次審査でどのような問題があるのか。時間が長くなるのか。

委員長：ヒアリングの時間配分が同じであれば数が増えると時間が延びる。

委員：二次審査の技術提案書作成は誰でも一所懸命やるが、6者では多すぎるのではないか。

委員長：今までの意見からすると、4者の選定でよいか。すなわち、B者、C者、D者、G者の4者でよいか。

委員一同：同意。

(2) 選定・非選定通知について

事務局：選定された者には選定通知を送付し、選定されなかった者には非選定通知を送付する。非選定通知を受けた者は、7日以内にその説明を求めることができる。その回答は10日以内に書面で行う。回答は事務局で案を作成し、委員長と協議し決定したい。

委員一同：同意。

(3) 二次審査について

事務局：3月18日開催の二次審査の進め方については、午前中に審査の進め方の決定や、ヒアリングの質疑内容の調整を行い、午後からはヒアリングの実施後、二次審査を行い、最優秀提案者と次点を決定する。ヒアリングの時間は、各者共プレゼンテーション（説

明) 20分と質疑応答20分を予定している。

委員：ヒアリング時間は、説明20分、質疑応答20分としているが、4者となり時間配分を見直すことはあるか。

事務局：時間を延ばすことは可能。

委員：説明は各者事前準備をよく行い差が付き難いので、質疑の時間を延ばした方がよい。

委員：20分の説明と30分の質疑応答としても収まる。

委員長：ヒアリングでは共通質問を2問程度。内容は次回の委員会のはじめに決定することとする。委員の質問は、限られた時間ですべての委員が質問するのは難しいので、質問の内容は簡潔にお願いしたい。説明は20分で十分。質疑応答は25分から30分。最後の議論に時間がかかる。

委員：質疑応答は25分でよいと思う。

委員長：それでは、説明20分、質疑応答25分とする。

事務局：また、二次審査の進め方では、第1回委員会において、ずば抜けて2者が僅差で競いあう場合の決定方法の検討が必要とのご意見があった。基本的には委員会の総意で決めていただきたいが、次回その案を示したい。

委員：結果として恣意的と言われない方法とすべき。

委員：決定するのは個人の集合でなく、委員会であり、総意で決定することはやましいことではないと思う。

委員長：2者が僅差で競い合う場合の決定方法など二次審査の進め方は、事務局案を作成し、次回の委員会の審査前に決定する。技術提案書の締め切りはいつか。

事務局：技術提案書の提出期限は3月6日。事前審査ができるように各委員あてに事前に送付する。技術提案書は一式A3版6枚の4者分。

(4) その他

事務局：公表については、参加表明書の提出者数は、従来、プロポーザルの途中で公表していなかったが、今回はすでに公表済み。本日の一次審査において選定された選定者数を公表する予定。また、他の事例について、二次審査で技術提案書を提出し、非特定となった者の会社名を公表した事例を調べてみたが、公表しても特に問題はなかったとの事だった。従来は、委員会の審議は非公開とし傍聴も認めておらず、結果公表において審査経過を示し、議事録は公表していない。今回は、議事録の公表を考えており、委員氏名の公表を含め、可能な限り透明性を高めるという趣旨でどのような形で公表するかについて意見をいただきたい。

委員：委員会を非公開としているのは、自由闊達な意見交換とするため。仮にヒアリングを

公開すれば、それだけでも十分透明性は高まる。講評で各者の評価を説明する方法もある。

委員：透明性の確保はすべて発言を表示することではなく、どういう委員の構成で、どのように審査したかを示すことが大事。

委員：提案に対する専門家としての意見は責任を持って公表できる。しかし、議論に当たりすべてのやりとりを具体的に公開することが前提であれば、率直な意見の交換ができなくなる。また、プロポーザル審査の最終的な決定は委員会の総意で決まるものであり、各委員の採点を公表することが前提では客観的な評価ができない恐れがある。各委員の採点結果と意見の表示方法は検討が必要。

委員：今後のプロポーザルの見本。よく検討して、公表のやり方を決めてもらいたい。

事務局：次回、案を示す。事前に委員長に相談する。

委員長：以上で審議は終了。

第2回委員会 参加表明書に対する各委員の意見

参加表明者	意見	委員
A者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	ランドスケープの実績は評価できる。	上山
	森のイメージの市民ロビー等低層部のイメージが実現されている。	田中
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	地域条件への配慮が乏しく、独創性に欠ける。	林・小松・坂本
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	ひとつおり具体化方策は書いてあるが、一般的な記述にとどまる。	赤司・小松・篠原・室崎
	ワンストップ窓口についての記載がある。	仲
	執務スペースの考え方が一般的である。	仲
	3)組織体制、作業スケジュールの評価	
	組織体制において、地元業者との設計JVについて、明確な記述がない。	安達
組織体制は評価できる。	上山	
スケジュールにもう少し細かさがほしい。	坂本	
参加表明者	意見	委員
B者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	実績は一定のレベルに達している。	林
	本業務に活かせる実績であるかは未知数。	室崎
	環境配慮への取り組みがうかがえる。	田中
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	「交流プラットフォーム」、「屋上の縁側」の提案は評価できる。	林・仲
	提案において、景観の意識が高い。	上山
	周辺のまちづくりを踏まえたゾーニング等の提案が、具体的でよくまとまっている。	坂本・田中
	防災と土地利用は動線をしっかり考え、周辺とまちの間に緩衝ゾーンを設ける等、防災デザイン的に面白い。	室崎
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	具体化方策が明確で、バランスが良い。	赤司
	「コミショニング」の観点が良い。	赤司
	コミュニケーションポイドなど、そつなく書いている。	小松
	テラス、防災緑地、オフィスの設計思想が適切で分かりやすい。	坂本
	部署横断レイアウト、インフォーマルコミュニケーションの活性化については評価できる。	仲
	3)組織体制、作業スケジュールの評価	
	スケジュール管理が細かく練られている。	林・坂本
	「つくるべき価値」の共有を図ろうとする点はよい。	林
共同体としてのプロジェクトの進め方は評価できる。	上山	

参加表明者	意見	委員
C者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	選定された事例は、よく成功している。	林
	ランドスケープの技術者の実績は評価できる。	上山
	場所の特性を理解しようとする姿勢が感じられる。	室崎
	地形活用と新しいまちづくりについて評価できる。	田中
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	「坂んまち広場」は面白い提案である。	林・篠原・仲
	すりばち状のボリューム配置をどう具体化するのかが分からない。	林
	「丘」の考え方は評価できる。	上山
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	提案が全体として一般的な記述にとどまる。	赤司・小松・室崎
	「坂の町」、「ハレとケの舞台」のコンセプトが先行し、内容が詰めきれていない。	坂本・田中
	執務空間についての説明が少ない。	仲
	防災について、一般的な記述にとどまる。	室崎
3)組織体制、作業スケジュールの評価		
現場を踏まえた明快なスケジュールである。	上山	
参加表明者	意見	委員
D者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	選定された事例は、よく成功している。	林
	場所の特性を踏まえ、本業務に活かせる可能性は大きい。	上山
	ランドスケープの実績が分からない。	上山
	総合力を有している。	室崎
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	具体的にイメージし難い。	林
	その土地が持つ記憶に配慮している。	上山
	周辺条件への配慮が見られ好ましい。	坂本
	水盤は維持管理が大変である。	篠原
	水辺と緑の景観の連続について評価する。	仲
	防災拠点として、水盤を設けるべきか疑問である。	田中
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	立地条件を考慮した耐震性能は評価できる。	安達
	環境面についての記述が若干少ない。	赤司
	ひとつおりの具体化方策はあるが、一般的記述にとどまる。	赤司
	執務空間についての説明が少ない。	仲
	屋上広場の防災的機能を明確にしている。	室崎
	歩行者デッキを2分割する提案は疑問である。	田中
	3)組織体制、作業スケジュールの評価	
スケジュールや組織体制がしっかり書かれている。	林・赤司・上山・小松・坂本・仲	
SI(スケルトンインフィル)構造の早期確定について提案されている。	小松	

参加表明者	意見	委員
E者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	本業務に活かせる事例であるか疑問である。	林・赤司
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	ランドマーク性を重視している。	上山
	屋上広場が防災的に位置づけられており、防災計画上面白い提案である。	室崎
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	「県庁の丘」というコンセプトが先行し、内容が詰めきれていない。	林・坂本
	提案の内容が観念的である。	赤司・小松・篠原・室崎
	具体的な方策が分かりづらい。	坂本
	執務空間についての説明がない。	仲
	3)組織体制、作業スケジュールの評価	
	組織体制において、各構成員の役割・協力体制が分かりづらい。	林・赤司・上山・田中
スケジュールにもう少し細かさがほしい。	赤司・坂本・室崎	
参加表明者	意見	委員
F者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	本業務に活かせることを示す具体性に乏しい。	林
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	「きびる」のコンセプトが先行し、内容が詰めきれていない。	林・坂本
	地下駐車場のコストが懸念される。	田中
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	ひとつおりの具体化方策が書いてあり、具体性も配慮されている。	赤司
	提案内容が観念的である。	小松
	交流エントランスホールは評価できる。	仲
	最近のオフィスの傾向について記載がある。	仲
	防災と環境共生との関係をうまく結び付けている。	室崎
	3)組織体制、作業スケジュールの評価	
	スケジュールや組織体制がしっかり書かれている。どこが何をやるのか、役割も書かれている。	赤司
	共同体制は良い。	上山
組織体制及びスケジュールにおいて、ランドスケープに関して分かりづらい。	上山	
スケジュールが一般的な記述にとどまる。	小松	

参加表明者	意見	委員
G者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	事例に説得力があり評価できる。	林
	デザイン力は評価できる。	林
	本業務に活かせることの関わりが弱い。	林
	会社としての実力があることが分かる。	室崎
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	「ながさき広場」の提案は評価できる。	林
	ランドスケープについて、広場のコンセプトに説得力がある。	小松
	地形を上手く利用するなど、環境との調和を積極的に考えられており、期待できる。	篠原・室崎
	全体的に、バランスが取れており、山と調和した建物は面白い提案である。	仲
	駅のプラットフォームとの接続の関係が疑問である。	田中
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	ひとつおりの具体化方策が書いてあり、具体性も配慮されている。	赤司
	環境面についての記述が若干少ない。	赤司
	柔軟性のある執務モジュール、フレキシブルを評価。	仲・田中
3)組織体制、作業スケジュールの評価		
スケジュールにもう少し細かさがほしい。	赤司・坂本	
参加表明者	意見	委員
H者	◇事務所及び技術者の業務実績の評価(様式6-1~2、様式7-1~4)	
	本業務に活かせる事例の提示がない。	林
	周辺緑地と一体化した実績は評価できる。	田中
	◇業務の実施方針の評価(様式8)	
	1)尾上地区全体の整備に関する考え方の評価	
	「新出島」のコンセプトは疑問である。	林・坂本・仲
	景観としてのスケール感に疑問がある。	上山
	広場の考え方がこれでいいのか疑問である。	小松
	2)基本構想を具体化するための方策の評価	
	建物配置は一定の配慮が伺える。	林
	具体化方策について説明が不十分。	赤司
	執務空間についての説明がない。	仲
	全体として提案性に乏しい。	室崎
	3)組織体制、作業スケジュールの評価	
	設計JVの考え方は評価できる。	林
	使い方を考えるワークショップの提案が良い。	坂本